

李栄薫編著「反日種族主義 日韓危機の根源」文藝春秋 2019年11月15日刊を読む

I. 真の知識人は世界人

1. 私は大衆の人気に神経を使わなければならない政治家ではありません。一人の知識人です。
2. (1)知識人が大衆の顔色を窺ったり、言うべきことを言わず、文章の論調を変えてしまったりしたら、その人は知識人だとは言えません。
(2)真の知識人は世界人です。
(3)世界人として自由人です。
3. (1)世界人の観点で自分の属する国家の利害関係をも公平に見つめなければなりません。
(2)そのような姿勢は政治家にも同じく要求されます。
(3)そうあってこそ国際社会が平和で、それぞれの国も平安になります。
4. 私は一人の知識人として、我々の憲法が保障する良心の自由、思想の自由、学問の自由を信じ、私の所信に従い発言するのみです。

P140 ~ 141

II. 李承晩の自由論

1. (1)① 1904年2月、日本とロシアが戦争を始めました。
②大韓帝国を餌とする戦争でした。
③大韓帝国はどちらにしても、戦争が終われば戦勝国の支配を受け、滅びる運命でした。
(2)①国事犯として漢城監獄に閉じ込められていた李承晩は、断腸の思いでした。
②「どうしてこの国は、こんなにまでなってしまったのか」。
③彼は狂ったように、ある一冊の本を書き始めました。
(3)①四カ月で脱稿したのが『独立精神』です。
②彼は、国が滅びた原因を独立精神の欠如に見つけました。
③独立と自由は同義反復です。
④つまり、自由精神の欠如こそが大韓帝国が何の対策も打てずに滅んだ根本原因でした。
2. 李承晩の自由論を紹介します。
(1)①神は人間を尊い存在として創造されました。
②他人に頼らずに自分の力で生きて行き、世の中で貴重な役立つ存在になるように、という神の召命を実践する人が自由人です。

③自由とはこのような存在感覚を言います。

(2)①自由人が自然に働きかけ生産した財物は、国家も勝手に奪って行くことができない彼の勝利です。

②自由人は、自分の囲いの中だけで全ての生活材料を工面することはできません。

③自由人は隣の人、隣の村、隣の国と通商をしないわけにはいきません。

④通商は、その範囲が広いほど財貨の質を高め、量を豊かにしてくれます。

⑤神がこの地球をあまりにもすばらしく創造されたためです。

(3)①つまり、資源と知識を広く多様にちりばめました。

②そうであるから通商は、学問と技術を発達させます。

③通商はまた、競争を触発します。

④競争は、他人を害そうという心から生ずるものではなく、他より先を行こうとする、自分の能力を発現しようとする、美しい過程です。

3. (1)①このような自由が花開いた所が、宗教改革以後の西洋でした。

②西洋人は地球が丸いということを知り、五大洋・六大州を駆け巡り、通商しました。

③これが今日、西洋が全ての面で東洋を圧倒した原因です。

(2)①将来世界は通商を通して一つになるでしょう。

②多様な人種が自由な世界家族として統合されるでしょう。

③戦争がなくなり、永久の平和が訪れるでしょう。

(3)①これは、どの国も逆らうことのできない神の摂理です。

②私のものが一番だと言って門戸を閉ざし、自らの国民を奴隷として使役し、外の世界との交渉を拒否する国と人種は、消滅するでしょう。

4. (1)以上が、李承晩が『独立精神』で披歴^{ひれき}した自由論です。

(2)要約すると、自由とは通商であり、学問であり、競争であり、文明開化であり、永久平和です。

(3)『独立精神』を読み進む中で私は、トーマス・ホッブズ、ジョン・ロック、アダム・スミス、イマヌエル・カント、トーマス・ジェファーソンの顔がちらつきました。

(4)李承晩は漢城監獄での5年7カ月間、膨大な量の読書を通し、西洋の歴史、宗教、政治について高い水準の知識を蓄積しました。

(5)彼は、将来世界は、アメリカが主導する自由の道につき従い、繁栄し、平和を享受するようになる、と信じました。

(6)彼は、すでに滅亡の道をたどっている彼の同族を、自由の道に導いて蘇生させようと決意しました。

(7)①「将来復活する韓国人の国は自由人の共和国だ。

②その国は自由な世界家族の一員として、世界に向かって大きく開かれた商業地域となるだろう」。

(8)李承晩の生涯は、この一筋の道を追い求めた巡礼の行軍でした。

(9)彼の熱い望みは、ついに大韓民国の建国で実現されました。

(10)彼の予言通りこの国は、過ぎし 70 年間、自由な世界家族の一員として大きな成果を収めました。

(11)このような歴史が、20 世紀を貫いた韓国史の主流でした。

(12)韓国史をその一部に組み入れた世界史の主流でもありました。

P331 ~ 333

<コメント>

「確かに日本支配は朝鮮に差別・抑圧・不平等をもたらした。だが、だからといって歴史に嘘をつくことはできない」との考えのもとに、韓国を愛する研究者が日韓関係を危機に陥らせた数々の論点を指摘、実証的に検証した憂国の書です。編者の基本的な考えと李承晩の「独立精神」を書き抜きました。ご一読ください。

2020年2月24日(月)